

岩手県公立学校

退職校長会だより



第206号

発行／岩手県公立学校退職校長会
代表 吉川 健次

事務局／〒020-0126 盛岡市安倍館町8-46
TEL・FAX 019(646)3612
印刷／富士屋印刷所 019(637)6391

読書のすすめ

会長 吉川 健次

2階に物を取りに行ったが何を取りに来たか思い出せなかったり、「QRコード」という言葉が出てこなかったり、先ほど見たドラマの主人公の俳優の名前が出てこなかったりすることが多くなった気がする。自分は後期高齢者でもあるし認知症の始まりかと思っ

た。そんなとき、川島隆太著「本を読むだけで脳は若返る」が目に入った。川島氏は、皆様ご存じの通り東北大学加齢医学



研究所の所長で脳科学者である。認知症になってしまった高齢の方々の認知機能を改善させるプログラムを開発した。その高齢者に日本語の文章を声に出して読むトレーニングを週5日間やつてもらったところ、驚くべき事に認知症の方々の認知機能が「向上」したそうである。活字を読むこと、音読することだけで、回

復・改善したのである。つまり、「本を読むだけで脳が若返った」とのことである。

私もそれをやってみたところ、なんとなくスッキリしたような気がした。黙読をしているとテレビの音が耳に入ってきて集中できなかったり、読めない漢字も読めたつもりで進めたりしていた。しかし、大きな声でなくても音読していると、本の内容が理解できたし、曖昧な読み方をしなくなった。

さらに、思い出せなかった俳優の名前は、ドラマの題名から調べ、紙に書いておくことにより次からはすぐに思い出せる。同様に「QRコード」も大丈夫である。これから、音読は続けていきたい。もう一つ。

本を選ぶとき、皆さんは、どのようにして選んでいるだろうか。私は、自分の好きな著者の本ばかり手に取っており、偏っていた。私は、中学校の数学の教師でしたので、本の題名に「数学の用語」が入っている小説を探してみることにした。松本清張の「ゼロの焦点」があった。楢円とは2つの定点からの距離の和が一定の点の集まりであり、その定点を焦点という。その2つの焦点の距離がゼロになると焦点は一つの点となり、その定点からの距離の和の集まりは円になる。

それと小説の内容を照らし合わせてみた。太平洋戦争の終戦直後に端を発する時代背景の元、東京本社と金沢支所に勤務する会社員が、新婚直後、妻を東京に残し金沢支所に行ったまま失踪する。妻は、探しに行くのだが……。

その他にも、「博士が愛した数式」（著者・小川洋子）、「野村克也の勝利の方程式」「イチローの勝利の方程式」（著者・永谷脩）、「死の同心円」（著者・秋月辰一郎）、「殺しの双曲線」（著者・西村京太郎）など沢山あった。この方法を取っていなければ、読書の幅を広げることができなかったと思う。

令和8年度 岩手県公立学校退職校長会

定期総会

・期日 令和8年5月12日(火) ・参加73名 ・会場 サンセル盛岡

令和8年度定期総会は、5月12日(火)午前11時から、来賓6名、本部役員等24名、代議員43名、合計73名の出席のもと開催された。昨年度ご逝去された78名の会員への黙祷を捧げた後、熊谷幸一総務部長の進行で、開会行事が行なわれた。

総会 次第 第

1 開会の言葉 前川清志副会長
2 会長挨拶(要旨) 吉川健次会長

大規模山林火災で被災された大槌町の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

さて、昨年度は退職校長会が結成60年の節目でありました。記念大会と併せ、「第51回県研修・親睦会盛岡大会」を多くの会員の参加のもと成功裡に開催することができました。今年度は、「三戸大会」を開催いたします。多くの方々の参加のもと、みんなで研修と親睦を図りましょう。また、一関東地区会の主管のもとCブロック研修会が開催されます。

昨年はいわて教育の日」制定20周年の節目の年でありました。教育の大切さを再認識するために「いわて教育のつどい」へ



令和8年度定期総会

3 来賓祝辞(要旨)

岩手県教育委員会
教育長 佐藤 一男 様
(代理) 学校教育企画監 大村 祐大 様

大槌町の山林火災により被害を受けられた皆様に、心よりお見舞い申し上げます。県教育委員会としても子どもたちの心のケアや教育環境の維持・確保に向けて関係機関と連携し取り組んでまいります。

さて、本定期総会の開催をお喜び申し上げますとともに、本県教育に対するご理解とお力添えに感謝申し上げます。昨年度は、貴会が結成60周年という大きな節目に、記念大会が盛大に開催されましたことは誠に意義深いことであります。会員の皆様の豊かな教職経験と人生経験、確かな見識を生かし、本県教育の充実と振興に多大なるご支援をいただいたいておりますことに、深く敬意を表します。

これまで、東日本大震災津波や

平成28年台風10号、大船渡市の山林火災など、様々な困難な状況に際しても学校が組織力を発揮し、子どもたちの学ぶ機会を懸命に守り抜いてまいりました。昨年7月及び今年4月の地震による津波警報の発令、大槌町での大規模な山林火災が発生するなど改めて災害への備えの重要性を実感する場面が続いております。こうした中でも、学校現場が冷静かつ的確に対応し、子どもたちの命と安全を守っていることは、脈々と受け継がれてきた本県教育の大きな強みであり、長年にわたり学校づくりを牽引してこられた会員の先生方のご尽力の賜物であります。その歩みの中から形づくられてきたものが、本県の教育の根幹に据える「いわての復興教育」です。東日本大震災津波の教訓を語り継ぎ、子どもたちが「いきる」「かわる」「そなえる」の三つの教育的価値を身に付けることを通して、郷土を愛し、その復興と発展を支える人材を育成するという理念は、まさに会員の皆様方の実践の積み重ねによって培われてきたものでもあります。東日本大震災津波発災から15年が経過した今だからこそ、こうした原点を改めて大切に受け止め、現職の校長先生方とも確かに共有し、学校経営に着実に反映させてまいりたいと考えております。



大村祐大
学校教育企画監

令和8年度は「岩手県教育振興計画」の中間年に当たります。本計画の基本目標である「学びと絆で夢と

未来を拓き 社会を創造する人づくり」の実現に向け、岩手の子どもたちが自分らしく学び、夢や希望を育みながら未来を切り拓く力を身に付けられるよう、引き続き施策の充実に努めてまいります。皆様には、豊かな教職経験と確かな識見の下に今後とも本県教育界に助言やエールを送っていただければ幸いに存じます。

岩手県中学校長会
会長 米 慎 司 様

本会定期総会の開催を心よりお喜び申し上げます。

さて、現在、新指導要領の改訂・告示の準備が進められております。「主体的・対話的で深い学びの実装」「多様性の包摂」「実現可能性の確保」の基本的な考え方のもと、多様な子どもたちの「深い学び」を確かなものにし、自らの人生をかし取りすることができるよう民主的で持続可能な社会の創り手をみんなで育む方向に向かってまいります。さらに、近年重視されているウエルビーイングの視点は、子どもたちの心身の健康と働きがいの向上にも十分に配慮していく必要があります。学校が安心して学び、そして働くことができる場であり続けるために、組織としての在り方を一層考えていかなければなりません。



米 慎司
県中学校長会長

東日本大震災から15年の間、岩泉の台風10号豪雨被害、大船渡地域の山林火災、津波警報の発令、大槌町の山林火災の

発生など自然災害も多発しており、今後起こりうる災害に対し、能動的に対応できる児童生徒を育成するために、災害の記憶と教訓を風化させないことと、復興教育、防災教育などを通して命を守る教育を一層推進しなければなりません。一方で、教職員による不祥事が後を絶ちません。このことは教育に対する信頼を大きく損なうものであり、極めて遺憾であります。服務規律の徹底と風通しの良い職場づくりを進め、不祥事の未然防止に取り組んでまいります。

このような状況の中、私たち校長は先輩方からの指導を思い起こし、諸課題に真摯に向き合い、解決に向け、国、県、市町村の教育施策を推進してまいります。また、優れた知見、先見の明と揺るがない強い信念、行動力をもって、一枚岩となり、子どもたちの幸せや教職員の働きがい、やりがいを実現できる魅力ある学校経営をしてまいります。

○祝電披露及び来賓紹介

来賓は岩手県教育委員会教育長 佐藤一男様（代理）、学校教育企画監 大村祐大様、岩手県小学校長会副会長 佐々木寿洋様、岩手県中学校長会会長 米 慎司様、日本教育会岩手県支部支部長 川村祥平様、岩手県退職公務員連盟会長 太田代政男様、岩手県退職女性校長会（いわて梅の実会）会長 佐藤みほ子様の6名であった。

4 議長選出

岩手地区会 小原眞澄会長

5 署名委員委嘱及び書記氏名

○署名委員 瀬川行夫（花巻地区会）、佐々木謙（遠野地区会）

○書記 林勢津子、佐賀敏子（常

任理事）

6 報告

○令和7年度会務報告

○令和7年度収支決算報告

○監査報告 白藤 茂監事

7 議事

○第1号議案

・令和7年度会務報告並びに収支決算報告の承認について

○第2号議案

・令和8年度基本方針（案）並びに事業計画（案）について

○第3号議案

・令和8年度一般収支予算並びに財政基金予算（案）について

○第4号議案

・その他

全ての議案が提案通り承認された。

8 その他

○会長より新常任理事の紹介

9 閉会の言葉 福士久雄副会長

令和8年度

基本方針並びに事業計画

I 基本方針

岩手県公立学校退職校長会は、結成以来、会員相互の親交を深め、連帯意識を高揚させ、生きがいの創出を目指し、併せて、豊かな生涯学習社会の推進と本県及び我が国教育・文化の振興への貢献・寄与を期して活動し、創意と工夫をもって幾多の課題に取り組み成果を挙げてきた。

一方、ICTへの対応、人口減少・少子高齢化による社会情勢の変化への対応、頻発する自然災害、多種の感染症への対応など、大国の力による現状変更の試みなどが社会情勢

を大きく変え、我々に大きな緊張感や不安感をもたらしている。

このような状況下であればこそ、我々には、豊かな識見や経験を活かし、何よりも生命の尊重を基本に据えて自らの生き方を豊かにし、子どもたちの未来を保障する活動を一層充実させていくことが求められている。

昨年度、本会は記念すべき節目の年を迎えて、結成60周年記念大会第51回県研修・親睦会「盛岡大会」を開催した。会員各位の御協力のもと、約200名の参加を得て盛大に開催された。この成果はさらに本年度以降に継続していきたい。

東日本大震災津波発災から15年が経過し被災地の復旧・復興が着実に進んでいる中、昨年2月26日、大船渡市で大規模な山林火災が発生し、平成以降最大規模の災害となった。他にも豪雨・豪雪災害やクマの出没による人的被害など様々な困難事例がみられたが、その都度、教職員や保護者、地域社会が懸命に努力し、子どもたちの本来の学校生活を確保してきた。

このような中で、本県の子どもたちは保護者、教職員等関係者一同の懸命な努力のもとに、思いやりと広い心をもち、たくましく育ってきている。我々はその姿を一層支援するために、被災地に寄り添い、情報共有し、また、今後も予想される新たな病災に対する科学的・医学的識見を深めるなど、更なる復興や防災に係る研鑽を積む必要がある。

いま本県では、「岩手県教育振興計画」（2024～2028）を策定し実践してきている。県教委はこの中間成果を「自分の住む地域が好きだ

と思っている児童生徒の割合が各校種とも85%を超えた」と発表している。子どもたちが郷土に誇りを持ち、日本のみならず世界で活躍する岩手県人が増えてくることは喜ばしい限りである。また、世界情勢にも目を向け、平和教育の深化・拡充に關与し、その重要性を訴えていくことも大切な使命であると考ええる。

そこで、会員相互の研修・親睦・交流を深めながら、郷土を愛し岩手の発展を支える人材の育成に向けた理想像を考究し、教育尊重の風土づくりに寄与しつつ、自らの生き方を豊かにし、社会貢献等の活動の活性化を着実に果たし、活力ある長寿社会の実現に向けた努力を継続していきたい。同時に、定年延長制にもなつて役職定年を迎える現職校長の本会加入への働きかけも継続していきたい。

以上の考えに基づき、我々は、教育関係機関・団体等との連携・協力を密にして会員のニーズに対応しながら、英知を結集して次のような重点で諸事業を推進していく。

II 事業の重点

1 各地区会相互の連携を推進するとともに、教育関係機関・団体等との連携・協力を密にし、会員のニーズに対応しながら諸事業を推進する。

2 被災地区会との交流を推進し、被災地を支援するとともに、「いわて復興教育」の理念を踏まえ、その推進を支援する。

3 各地区会及び各ブロックの活動を支援し、組織活動の活性化と円滑な運営を図る。

4 諸研修等を通して、社会参画や

- 地域活動に生かす情報を収集し、生涯学習の充実に努める。
- 5 役職定年者（校長）及び未加入者の加入促進に努めるとともに、会員の親睦・交流を深め、生きがいの創出に資する福利・厚生を増進に努める。
- 6 予算の効率的運用や財政基金の充実に努め、財政基盤の確立を図る。
- 7 「いわて教育の日」の具体的な推進に協力し、その充実と発展に努める。

Ⅲ 各部の事業計画

●総務部

- (1) 会員の連携意識の高揚と組織体制の確立
- ① 諸会議の開催（定期総会、理事会、常任理事会、事務局長会議等）
- ② 第52回県研修・親睦会「二戸大会」の実施及び周知
- ③ 教職員の定年延長に伴う役職定年者（校長）、未加入者への加入促進
- ④ 会員名簿の作成及び会員への配付並びに今後の作成検討
- ⑤ 東日本大震災等の被災地区会との交流
- ⑥ 会員の実態把握と組織の活性化及びデジタル化の推進（「岩手県公立学校退職校長会ホームページ」の開設）
- (2) 関係機関・団体との交流・連携の強化
- ① 岩手県教育委員会、岩手県市町村教育委員会協議会、岩手県小学校長会、岩手県中学校長会
- ② 全国連合退職校長会、東北地区退職校長会協議会

- ③ 岩手県退職女性校長会（いわて梅の実会）
- ④ 「いわて教育の日」推進協議会
- ⑤ その他の関係機関・団体
- (3) 情報の交流と連携意識の増進
- ① 各地区会及び全国連合退職校長会、東北地区退職校長会協議会との連携強化と情報交換
- ② 岩手県公立学校退職校長会報の配付と全国連合退職校長会報の送付
- ・県会報
- 7月1日第206号 1月1日第207号
- 3月31日第208号
- ※年間3回発行に変更（令和8年度から）
- ・全連退会報
- 10月1日第238号 1月1日第239号
- 3月31日第240号
- (4) 第52回東北地区退職校長会協議会秋田大会への参加
- ・期日 10月15日（木）
- ・会場 秋田市（会場は未定）
- ・参加者 会長、副会長、総務部長、事務局長等

●研修部

- (1) 全県的研修
- ① 岩手県公立学校退職校長会第52回県研修・親睦会「二戸大会」
- ・テーマ カシオペアの地から世界へ（先人から受け継ぐ現在、そして未来）
- ・期日 令和8年9月18日（金）
- ・会場 二戸市民文化会館中ホール及び二戸パークホテル
- ・記念講演
- ・児童生徒の発表
- ・ブロック研修会（近隣地区会合同研修会 相互交流）
- ※今年度はCブロックで開催主管は一関東である。

- (3) 現職校長会との学習交流と連携協力
- ① 現職・退職両校長会幹部懇談会の開催 例年7月末
- ② 現職・退職両校長会教育懇談会の開催 例年12月上旬
- 4月の現職校長会の総会後、開催日及び内容を協議決定
- ④ 会報の定期的発行
- (4) ●厚生部
- (1) 会員の親睦と交流を図る事業の推進（親睦会の運営開催、研修会等との併催）
- ① 県研修・親睦会「二戸大会」
- 9月18日（金）
- ② 現職・退職両校長会幹部懇談会7月末（予定）
- ③ 現職・退職両校長会教育懇談会12月上旬（予定）
- (2) 会員の福利・慶弔に関する事業の推進
- ① 上寿、米寿を迎えられた会員へ賀詞と記念品、及び全連退からの賀詞を贈呈。
- ② 叙勲を受章された会員へ祝詞を贈呈。（退職校長会感謝規定）
- ③ 逝去された会員の遺族へ弔詞を奉呈。
- (3) 「いわて教育の日」推進協議会の具体的展開への協力（推進協議会事務局長・厚生部長）
- 経理部
- (1) 予算の効率的運用
- ① 計画的な予算執行と予算減額に伴う経費削減の工夫
- ② 会費の早期納入促進
- ③ 会費納入免除会員の把握
- (2) 財政基盤の確立
- ① 基金の充実
- ・基金の計画的、継続的な積み立てによる財政基盤の強化

令和8年度 事業実施予定期日

- | | |
|-----------|--------------------|
| 4月2日（木） | 第1回常任理事会 |
| 4月9日（木） | 会計監査 |
| 4月15日（水） | 第1回理事会 |
| 5月12日（火） | 定期総会 |
| 6月11日（木） | 全国連合退職校長会理事会 |
| 6月12日（金） | 全国連合退職校長会総会 |
| 6月18日（木） | 第2回常任理事会 |
| 7月1日（水） | 会報発行 |
| 7月16日（木） | 第3回常任理事会 |
| 7月末実施予定 | 現職・退職両校長会幹部懇談会 |
| 8月19日（水） | 第1回事務局会議 |
| 6月～8月実施予定 | ブロック研修会 |
| 9月18日（金） | 県研修・親睦会（二戸大会） |
| 10月15日（木） | 東北地区退職校長会協議会（秋田大会） |
| 10月22日（木） | 第4回常任理事会 |
| 11月9日（月） | 「いわて教育の日」のつどい |
| 12月実施予定 | 現職・退職両校長会教育懇談会 |
| 1月1日（金） | 会報発行 |
| 1月14日（木） | 第5回常任理事会 |
| 2月17日（水） | 第2回理事会 |
| 3月3日（水） | 第2回事務局長会議 |
| 3月11日（木） | 部長会議 |
| 3月18日（木） | 第6回常任理事会 |
| 3月31日（水） | 会報発行 |

令和8年度 県本部役員

顧問	西村 倬郎 (元会長)
〃	佐瀬 壽朗 (元会長)
〃	木村 幸治 (前会長)
〃	吉川 健次 (盛岡)
副会長	菅原 壽 (盛岡・盛岡ブロック)
〃	深澤 瞭 (和賀・中央ブロック)
〃	前川 清志 (釜石・奥南ブロック)
〃	福士 久雄 (山田・奥北ブロック)
監事	長谷川 滋 (盛岡・盛岡紫波)
〃	白藤 茂 (花巻・花巻・岩手)
〃	菅原 隆二 (二戸・二戸・和賀)
常任理事	(〇は部長、☆は新任)
総務部	〇熊谷 幸一
〃	館澤 卓宏 (県事務局次長)
〃	大西 洋悦 (県事務局次長)
〃	平 政光 (盛岡地区会事務局長)
〃	小笠原 章 (盛岡地区会事務局長)
〃	佐藤 精晋
研修部	〇篠田 宜道
〃	林 勢津子
〃	陳ヶ岡 安雄
〃	佐賀 敏子
〃	☆大林 裕明
〃	〇熊谷 雅英
〃	鳥羽真喜子
〃	〇佐々木則子
〃	山口 道明

※なお、令和8年度各地区会役員等一覧は、紙面の都合上、ホームページに掲載します。(10頁参照のこと)

「全国連合退職校長会」に出席して

会長 吉川 健次

「令和8年度全国連合退職校長会」の理事会・総会は、理事会には会長が、総会には会長、副会長が出席し、令和8年6月11日(木)・12日(金)東京都品川区立総合区民会館「きゅりあん」で開催された。

まずは、朗報である。全連退からの退会を表明していた青森県退職校長会は、登録人数は減ったものの、「青森県東青地区退職校長会」として全連退に復帰することとなった。全連退としてもこの上ない喜びである。

全連退は昨年、設立60周年の記念すべき年を迎え、「全連退設立60周年記念式典」が盛大に開催された。式の中では、長年、副会長や理事を務めた方に感謝状が授与された。我々が顧問の木村幸治氏も授与された。本会として大変うれしい事であった。

さて、全連退の目的は、教育尊重の機運を高め教育振興への寄与と会員の福祉の増進に資することである。連合体として中央省庁へ陳情をしており、教員調整額が今年1月から段階的に4%から10%に改正されたのも長年陳情してきた成果の一つである。

総会では、一般会計で組織対策費として70万円が可決された。各県へ登録人数の割合で配分されるので、新会員加入への活動費として活用したい。

本部役員の改選期ではないが、体

調不良で会計部長と事務局長が交代された。

午後からは、前文部科学省中等教育局主任視学官、宮崎活志氏による「全ての子どもたちの『深い学び』を確かなものに」と題してのご講演があった。退職校長もデジタル教科書など「学習指導要領」の改訂へも注目しなければならぬと感じた。

第1回理事会

・期日 令和8年4月15日(水)
・会場 盛岡市中央公民館

令和8年度第1回理事会が、吉川会長をはじめ、各地区会理事(地区会会長)、監事、常任理事の計32名の出席のもと開催された。

【理事会次第】

1 開会の言葉 菅原壽副会長

2 会長挨拶(要旨) 吉川健次会長
県内各地からお集まりいただきましたことに感謝申し上げます。今年度は、事業の見直しに伴う組織の改編に伴い、新たに大林裕明氏を常任理事として迎えました。さて、財政状況の厳しい折、会報の発行回数を3回に減らすことをはじめ事業の見直しを行い、会費の現状維持に努めました。また、会員相互の理解を一層深めるため、ホームページを開設する等の工夫で交流が一層深まることを期待しています。

今年度はたくさんの方の魅力を詰まらせた二戸地区において第52回県研修・親睦会が開催されます。全ての会員が集う年1回の貴重な機会です。一

人でも多くの会員の参加を希望します。

新規の加入についての各地区でのお取り組みに感謝いたします。多くの参加をいただきました。

3 議長選出 小原真澄(岩手地区会会長)

4 監査報告 長谷川滋監事

5 協議

5月開催予定の定期総会に提案される議案について協議が行われ、「令和7年度会務報告並びに収支決算について」「令和8年度基本方針並びに各部署事業計画について」、「令和8年度収支予算並びに財政基金予算について」、「ホームページの開設について」のすべての案件について承認された。

最後に、二戸地区会清川会長より、第52回県研修・親睦会についての二次案内の説明、ブロック研修会についてはCブロック主管の一関東地区会皆川会長より説明があった。また、各理事からは、各々地区会の実情並びに活動の工夫が述べられ、時間をオーバーする熱心な討議が行われた。

6 閉会の言葉 深澤瞭副会長



第1回 理事会

第52回 県研修・親睦会「二戸大会」

大会テーマ 「カシオペアの地から世界へ」

～先人から受け継ぐ現在、そして未来～

本大会は、退職校長会全ての会員の研修と親睦を目的とした本会最大事業である。

昨年は、大会テーマ「明日に向かって豊かに生きる」～先人をたずねて～のもと、本会結成60周年記念大会として「盛岡大会」が県内各地から多数の会員の参加により、盛大に開催された。大会テーマに沿った記念講演や児童生徒発表、見学研修が行われ、参加者にとって大変感銘深い大会となった。

今年度は、下記の日程で、第52回県研修・親睦会「二戸大会」が、カシオペアの地、二戸市において開催される。たくさんの出会いのもと充実した大会にしていまいりましょう。

1 期 日 令和8年9月18日（金）

2 会 場 主会場 二戸市民文化会館中ホール 親睦会 二戸パークホテル

3 日 程 《9月18日（金）》

10:00 11:00 12:30 13:15 14:10 14:55 15:10 16:00 18:00

受付	記念講演	昼食	開会行事	児童生徒発表	閉会行事	移動	親睦会
----	------	----	------	--------	------	----	-----

4 記念講演

演題 「世界を呑む！！南部美人の挑戦」 講師 株式会社南部美人 五代目蔵元 久慈浩介氏

5 児童・生徒発表

①にのへJrマーチングバンド ②二戸市立福岡中学校特設合唱部・応援団

6 会 費

研修会 2,000円 昼食 1,000円 親睦会参加者 8,000円

7 その他

(1) 宿泊希望者は大会事務局が予約・連絡

例（朝食付き）二戸パークホテル（8,930円） 二戸シティーホテル（8,300円）

(2) シャトルバスの運行（主な経路）

二戸駅 → 二戸市民文化会館 → 二戸パークホテル → 二戸駅

今年の「二戸大会」は、令和8年9月18日（金）の1日開催で行います。主会場は、二戸市民文化会館中ホール、親睦会会場は、二戸パークホテルです。内容は、記念講演と児童生徒の発表です。講演は、演題「世界を呑む！！南部美人の挑戦」と題して、講師に久慈浩介氏をお招きしております。また、にのへJrマーチングバンドと二戸市立福岡中学校特設合唱部・応援団が児童生徒の発表を行います。



昨年開催された「盛岡大会」は、岩手県公立学校退職校長会結成60周年にふさわしい、感動と感激が溢れる盛大な記念大会となりました。準備から当日の対応、記念誌の発行までのご努力に対しまして、改めて感謝の意を表します。

二戸地区会
会長 清川 泰

令和8年度第52回県研修・親睦会
「二戸大会」
開催に向けて

「二戸大会」の大会テーマは、「カシオペアの地から世界へ」先人から受け継ぐ現在、そして未来」としました。二戸地区は以前、二戸市、軽米町、九戸村、一戸町、浄法寺町の五市町村でした。地図での位置関係が、冬の星座カシオペア座のWの文字を模ることからカシオペア連邦と呼ばれるようになりました。その呼び方にちなんで、大会テーマを設定しました。

この地の歴史を辿ると、一戸町の世界文化遺産・御所野遺跡、仁左平の蝦夷と呼ばれた伊加古、豊臣秀吉に最後まで抵抗した九戸政実、吉田松陰を師とした相馬大作、世界を舞台に活躍した田中館愛橘など、風土や偉人の生き様を受け継いでいるように思います。

その素地は「人づくり」に他なりません。過去も現在もそして未来も「人づくり」を目指す教育の果たす役割は重要であることは言うまでもありません。この「二戸大会」が退職校長会としての役割を果たす一助となることを願っております。

岩手県北のカシオペアの地に、沢山の会員の皆様が集まっています。皆さまようお願い申し上げます。

わたしの3・11



和賀地区会
齋藤 康

平成18年4月から地域における社会教育活動の一端を担う

活動の拠点である飯豊地区交流センターのセンター長として活動していた。この場所から「わたしの3・11」が始まった。

震災から15年、交流センターを中心に行った被災者支援や現地でのボランティア活動、さらに、教え子たちと行った支援活動等の取り組みを紹介する。

被災者に寄り添いながら支援の活動

午後2時46分突然の大きな揺れ、「早く外にでろ」と叫び駐車場に避難。この日、センター利用者がいなかったことがせめての救いであった。事務所は足の踏み場がないほどの状態。センターは新築から5年ほどで大きな損壊はなかった。

センターの近くに県立中部病院がある。そこには怪我をして防災ヘリ等で搬送された人やその家族が多数おり、センターはその方々の避難場所として北上市から指定を受け、発災3日後から受け入れを開始した。被災者33名（釜石24名、陸前高田4名、大槌3名、宮古、仙台各1

名）が50畳の和室で避難生活を送る。

地区の各種団体女性部（6団体）

が「私達に何かお手伝いさせて下さい」と声をかけてきた。早速打合せを行い昼食時に温かい汁物等を提供することなど、次のことを確認し、各団体が4〜5人ずつ日替わりで活動することになった。

○温かい汁物、おかず（副食）2品以内を提供

○被災者、市の担当者と共に食事を○食事中の会話では被災者へのこちらからの質問は控えめに

避難された方たちも昼食ボランティアの女性団体が入ったことで、会話のない生活に変化が見られ、一週間ほど過ごした頃に「和室の自治会」が誕生した。センター内の清掃、調理の手伝い、中部病院への通院手伝いなど、お互いを気遣い、助け合いながら自然体で行動されていた。

1ヶ月ほどして、被災者は和賀町の瀬美温泉に引っ越しすることになった。引っ越し前日にセンター職員、昼食ボランティアの方々で「お別れ昼食会」を開催した。和やかな雰囲気の中、被災者から涙ながらに「こんなに温かくお世話して頂き一生忘れません。本当にありがとうございしました」と感謝の言葉を頂いた。私達もその言葉を聞き、精一杯やったという実感を抱いた。女性団体の皆さん、米や野菜などをたくさ

ん提供してくれた地区の皆さんに感謝、感謝である。

教え子の活動に感動

発災から2ヶ月ほど経った日の夜、一本の電話があった。「先生、俺たちワルで終わりがたくない。同級生に物資提供を呼びかけ被災者に届けたい。でも、俺たちの名前でやつたら信じてもらえないので先生の名前を使ってもいいか」

全国的に学校が荒れた頃の昭和58年に赴任した中学校の教え子たちである。「素晴らしい発想だ、飯豊地区については私に任せろ。共に頑張ろう」彼らの全身から湧き出る行動を起こす意気込みに感動した。

1ヶ月ほどで2トントラック2台分の物資を集め、釜石と大船渡の避難所に届けた。その日の夜、北上の居酒屋で苦労会を開いた。彼らは、やり切ったという気持ちや物資を届けた先々での「ありがとう」の言葉に感激したことなどを満足した表情で話してくれた。42歳になった彼らの社会に貢献しようとするエネルギーに変革した姿に触れ、素晴らしい大人に成長したことに感動し、美酒を味わえたひとときであった。

あの日から15年そして今

当地区では、「現地での復旧復興と継続できる復興活動を！」という方針を立て、次のようなボランティア活動を行ってきた。

1つ 飯豊地区自治公民館連絡協議会（40自治会公民館）で釜石の復

旧ボランティア活動を震災の年から毎年7月下旬の日曜日に実施。毎回30名ほど協力者が集まり5年間継続した。帰りには「釜石にお金を落とす」との名目で「釜石シープラザ」で買い物。

2つ 毎年12月に震災関連の「地区民講演会」を7年間実施。釜石、大船渡から講師を招き、現地の状況等を聞く機会を設けた。釜石宝来館の女将「岩崎昭子さん」には3回ほど講演して頂いた。

3つ 地区の各種団体での研修会に被災地訪問を是非、計画に入れてほしい旨を要請。

4つ 飯豊地区文化祭（11月開催）では、「復興支援酒」のコーナーを設け「浜千鳥」の販売。1本に付き100円を募金し、毎年120本ほど販売。現在も継続中。

震災から15年、地区民の献身的なボランティア活動が今の地区事業を支え、中心的な役割を果たしている。また、教え子たちの「ワルで人生を終わらせたくない」その思いが同級生たちの心を動かし、予想を超える支援物資を被災地に届けることができた。

「アノネがんばらなくてもいいからさ具体的に動くことだね」（相田みつを）

動くことで何らかの答えが出ることを信じこれからも地域で動きたい。

わたしの3・11 防災は遺伝子へ

胆江地区会

及川 総逸郎



3月11日午後2時46分。突然の激震が学校を襲う。山は唸り校舎は軋む。子どもたちは机に潜り、揺れと揺れの隙間を縫って屋外へと避難する。「児童46名全員避難完了」しかし地震は止まず地鳴りは続く。そして、けたたましいサイレンとともに防災放送が鳴り響く「大津波警報発令。大津波警報発令：子どもたちは体を震わせ校門前の冷たいコンクリートにじっと座っている。「体育館に避難しましょう。」凍える子どもたちを体育館に移動させ、男子職員が教室に戻り子どもたちの上着を持ってくる。

その頃には続々避難民が学校に駆け上がってくる。作業着姿で一糸乱れず集団避難する精密機器工場。その後を追うように続く群衆。人波と車と…。その中には老いた母を一輪車に乗せ坂道を上ってくる人、妻を耕耘機の荷台に寝かせ運んでくる人。人・人・人。

繰り返される防災放送「2時46分、三陸沖を震源とする大きな地震があり、大津波警報が発令されました。直ちに高台に避難してください。」「越えるべが：：？」見つめる先で、ふくれあがる波。防波堤を乗り越えるのに時間はいらなかった。波の上に波が乗り勢いを増し木々をなぎ倒し、押し寄せ



全壊した漁師さんの浴場

てくる。茫然と立ち尽くす人々。子どもたちは副校長と教務の判断で体育館よりさらに高い民家に避難していた。

そして外が見えないようにカーテンを引き子どもたちと輪になっていた。「ありがとう。先生頼むよ：：」女子職員に声をかけ坂道を駆け下りる。

そのとき、体育館の前に消防団の車が止まる。「先生、担架・担架：：」荷台には波にのまれた人が横たわっている。続々担ぎ込まれるずぶ濡れの人・人・人。

養護教諭の「暖めないよ：：」の声で、プールの水を汲み、簡易コンロでお湯を沸かす。学校にあった一個の湯たんぽをヒントに、ペットボトルをかき集め、その場しのぎの湯たんぽを作る。「おばあちゃん、おばあちゃん。聞こえる？大丈夫？」声をかけ体をさする。養護教諭はステージの階段にけが人を座らせ、ぱっくりと開いた傷口を押さえながら「腕上げててくださいね」と励ますように話しかける。体育館のあちこちからは「保健の先生！」「保健の先生！」と声が飛ぶ。駆け回る養護教諭。

暗闇が迫る頃には雪までが舞っていた。突然、米袋を抱えた地区民が現れ「先生ご飯たがねべが（炊けないでしようか）：：みんなさ食せねば。」ご飯？。

本校は昨年の7月まで自校炊飯によ

る給食が行われ、その給食施設が残っていた。「加賀さん（昨年10月に転入してきた学校用務員）給食室使えっペが？」「たぶん：：」「やってみっペ」でも、水は？：：。とうに水道は止まっていた。

そのとき、学校より少し上の民家に自家水道が生きていることが分かった。バケツややかんをトラックに積み、保護者で行ってみた。電気が途絶え水圧は弱いが出た。汲めるだけ汲んで学校に戻る。駆けつけた地区民（米袋を抱えてきた地区民）と副校長が給食室を開け準備していた。米をとき暗闇での炊飯が始まる。

何度目かの給水から戻ると、自主防災の隊長に呼ばれた。体育館に入ると老人施設の看護師さんが待っていた。「先生、薬取りに行きませんか？」「明日の朝、明るくなつてからでは：：」

「心臓病の人もいるので時間通りに」「村松さん（隊長）案内してください」「看護師さんと隊長を車に乗せたが、さすがに心細い。ふっと頭をよぎったのが、避難民の中にラガーマンが居たこととであった。（あいつが居れば1000人力）」「ラガーマン乗れ」「これから、施設に薬を取りに行く」「了解」プロッブとしてスクラムの核となる彼は、まさにラガーマンの鑑であった。



津波の破壊力

た。この夜、がれきの先には星空が冷たく瞬いていた。私がいた赤前地区は、宮古湾の最南部



炊き出しをするチームツグエ

に位置し、津波の直撃を受け、喪失家屋400戸、犠牲者は26名に及ぶ未曾有の大惨事であった。あの米袋を抱え「ご飯を炊き出しをするチームツグエ」の方はその後も調理場運営に関わりリーダーとして活躍してくれた。

4日から自衛隊の炊き出しが始まったが、避難所には高齢者が多く自衛隊食は向かないことが分かった。調理場の判断で食材の支給を受け地域と年齢にあわせたメニューを提供することとなった。まだ電気の点かない中での粋な計らいであった。そして、3月18日には電気が通り、21日には水道も開通した。

米袋を抱え飛び込んできた方は、チリ地震津波で幼い弟の手を引き裸足で逃げ延びた方である。そして、子どもたちをより高い所に避難させた副校長と教務主任も海の育ちである。もちろんあのラガーマンも生粋の宮古っ子である。遺伝子に防災が刷り込まれた職員や地域の皆様に多くのことを学んだ。

そして、毎年3月11日が来るたびに職員と地域の皆様に手を合わせ詫びている。一人ひとりの職員、地域の人には家族があり家庭がある。善意に甘え頑張り続けていただいたこと、心からお詫び申し上げます。休むことも必要です。

（元宮古市立赤前小学校 校長）

「ホームページの開設」について

今年度から、会員相互の絆をより一層深める場として岩手県公立学校退職校長会のホームページを開設しました。今年度を試行期間として、令和9年度より本格運用を開始します。次のURLにアクセスし、ご覧の上、意見・要望をお寄せください。

A・・・一般公開サイト (<https://iwataikou.jp>)



B・・・会員限定用サイト (<https://mo.iwataikou.jp>)



会員の動静

祝 令和8年春の叙勲

令和8年春の叙勲で、次の方々がその栄に浴されました。
皆様とともに、心からこのご慶事をお祝いし、お慶び申し上げます。

○瑞宝双光章

小 向 和 秀 氏 (71歳)

滝沢市牧野林

盛岡地区会

○瑞宝双光章

佐 藤 恵 一 氏 (74歳)

一関市関が丘

一関西地区会

○瑞宝双光章

玉 川 英 喜 氏 (74歳)

盛岡市門

盛岡地区会

○瑞宝双光章

槻 館 行 男 氏 (71歳)

二戸市金田一字荒田

二戸地区会

祝 高齢者叙勲

前号に引き続き、令和8年4月以降に高齢者叙勲の栄に浴された方は次のとおりです。
皆様とともに心からお祝いし、お慶び申し上げます。

○瑞寶双光章(令和8年4月1日付)

佐 藤 勝 江 氏

盛岡市東緑が丘

盛岡地区会

○瑞寶双光章(令和8年5月1日付)

坂 本 守 氏

盛岡市高松

岩手地区会

○瑞寶双光章(令和8年6月1日付)

該当なし

編集後記

5月。盛岡では「東北の絆まつり」が開催された。東日本大震災からの復興を願い、東北6県の祭りが集結し今に至っている。あれから15年という月日が流れた。しかし、その間の北海道三陸沖地震と津波、大船渡市や大槌町の大規模山林火災の発生は、災害の怖さと同時に日常の大切さを決して忘れてはならないことの戒めとも思える。

さて、この3月、役職定年を迎えた方々の多くが新しく本会会員として加入していただいた。心より歓迎するとともに新しい風を大いに期待するものである。

本年度は、会報の回数減や会議の持ち方等の工夫を行い、課題である会員数の減少、諸物価高騰等による活動の見直しを行った。一方、会員相互のこれまで以上の交流の活発化を目指し、ホームページが開設された。是非とも活用したいものである。

9月には、第52回県研修・親睦会「二戸大会」が開催される。新しい仲間を迎えようと旧交を温め、これからの思いを語り合いたい。

終わりに、「わたしの3・11」へ玉稿を頂戴いたしました和賀地区会の齋藤康様、胆江地区会の及川総逸郎様に心よりお礼申し上げます。

岩手県公立学校退職校長会

郵便振替口座番号

0230017124952

第一面の本会報題字は
故白木龍竹氏の直筆による